

子規博オリジナルクイズ

答えあわせ



Q1の答え

の **ぼ** さん

子規しきさんは本名ほんみょうを正岡まさおか常規つねのりといいます。幼名ようみょう(子どもの頃に呼ばれる名前)は最初さいしょ「處之助ところのすけ」でしたが、「**のぼる**のぼる」と変かえました。それからは家族かぞくや友達ともだちから親しみしたを込めて「**のぼさん**」と呼ばれるようになります。

周りまわのみんなは散切り頭さんぎになっどるのに、まだちょんまげあたまを結ゆっどるけん、「まげのぼさん」なんてからかわれたりもしたのう。



Q2の答え

6 月 **14** 日

明治めいじ16年6月8日に叔父おじの加藤かとう拓川たくせんから手紙てがみを受け取うった子規しきさんは、10日に三津浜みつはまを出発しゅっぱつしました。船ふねに乗のって横浜よこはまへ向むかい、そこからは完成かんせいしたばかりの汽車きしゃに乗のってようやく東京とうきょうに到着とうちゃくしました。

拓川たくせんおじさんから「東京とうきょうへ来きい」という手紙てがみが来きたとき、それはそれはうれしかったわい。でも初はじめてのひとり旅たびやけん、三津みつから船ふねに乗のるときはとても心細こころぼそかったんよ。



Q3の答え

ほ **と** **と** **ぎ** **す**

「ほととぎす」は口くちの中なかが赤あかい鳥とりで、なくたびに血ちをはいているようにみえます。子規しきさんはそんなほととぎすに血ちをはいた自分じぶんを重かさね合あわせて、「子規しき」というペンネームつかを使うようになりました。

たけのさとびと
竹乃里人
だっさいしよおくしゅじん
野球
めんどくさい
瀬祭書屋主人
面読齋
じょうき
丈鬼
ろうおう
老櫻

あしは100個こいじゅう以上も
ペンネームを使うたんぞな。



Q4の答え

新聞

日本

子規さんは25歳で日本新聞社へ入社して、新聞記者として働きました。
芸芸欄という部分を担当して、俳句や短歌を募集していました。

27歳のとき、「日本」の姉妹紙「小日本」の編集長も務めたぞな。

「小日本」でも小説や紀行文を書いたり、俳句の募集をしたりしとったんよ。



Q5の答え

海山
風雨

鞆の文字は子規さんが自分で書いたものです。

子規さんが清国へ到着した時、戦争は終わりに
近づいていたので、子規さんが実際に戦いを見
ることはできませんでした。

戦いを見ることはできなかったけど、清国で作家の森鷗外先生と会ったんよ。
毎日のように鷗外さんのところへ行っては、文学の話で盛り上がったわい。



Q6の答え

夏目漱石

漱石さんは明治28年の4月から、松山中学校（現在の松山東高等学校）で英語教師と
して働いていました。

愚陀佛という漱石さんの俳号にちなんでこの家は「愚陀佛庵」と呼ばれます。

子規博の常設展示室には、愚陀佛庵の1階部分が再現してあります。

子規さんたちになりきって写真を撮ってみてください。

愚陀佛庵の1階にあしが、2階に漱石が住んどったんぞなもし。

52日の間に漱石たちと道後や松山と一緒に散策したんは楽しかったのう。

東京に戻るまで、がいに（たいそう）世話になったわい。



Q7の答え

(上の絵)



(下の絵)



子規さんは、少年時代から絵を
しようねん じ だい え
 描くことが好きでした。病気で
か す びょうき
 寝たきりになってからも、薬を
ね たきり なる ても くすり
 の飲んで痛みが和らぐ少しの時間
の いた やわ すこ じ かん
 を使って、庭の草花や身の回り
を つかって にはわ ぼうな み まわり
 の物を夢中で描きました。

なかむら ふ せつ すいさい ぐ はじ しゅうかいどう
 中村不折くんにもろた水彩絵の具を使って初めて描いた「秋海棠」の絵は、
 よーけほめてもろうて、うれしくてたまらんかったわい。



Q8の答え



- ◆ へちま さい たん ほとけ 系瓜咲て痰のつまりし佛かな
- ◆ いっと ま 痰一斗系瓜の水も間に合わず
- ◆ と をとといの系瓜の水も取らざりき

この3句は、どれも「へちま」を題材にしていることから、子規さんの命日は
だいざい めいにち
 「系瓜忌」とも呼ばれています。

へちまは痰きを切る薬として使うとったんよ。妹の律いもうと りつに紙かみを貼はった画板がばんを持って
 もろて、あおむけに寝ころんだまま、この3句を詠よんだんぞな。



なんもんせいかい

何問正解しとった？

あしの事、もっと詳しく

なっておくれな！

